

私の大好きな旅先

北海道医療センター 初期臨床研修医

さらたに あかり
更谷 朱里

初めまして、北海道医療センター初期臨床研修医の更谷朱里と申します。

2023年3月に札幌医科大学を卒業し、現在は指導医の先生方や先輩、同期に恵まれ、充実した研修を行わせていただいています。

この度は大学時代の同期であり戦友の関根美空先生より紹介をいただきました。彼女とは学籍番号も近く、部活動（IFMSA：国際医学生連盟）でも関わりがあり、何かと縁があるようです。バイトを何連勤もしたうえで学業と部活も両立していた彼女はとてもまぶしく、尊敬しております。

さて、みなさんは大学受験のころを覚えていますか？ 6年も前のことですが、勉強でつらい時は「大学に受かって、将来はこんなことをしたい」とよく妄想していたことをよく覚えています。その時に考えていた、将来やりたいことリストの1つが47都道府県すべてをめぐるといことです。まだ見たことない世界を見てみたいと願っていました。きっかけは中学生の頃に弓道部で全国大会に出場したことでした。北海道の地方大会では同世代の弓道人口は数人程度で、優勝といっても4、5人中の1位でした。全国大会では何十人もの同年代の選手がいて、しかも皆百発百中、とても歯が立ちませんでした。自分がいかに井の中の蛙であったかを思い知り、日本の広さを実感しました。また、全国大会が「東京の伊勢神宮」東京大神宮であったことも、田舎者の私にとって人の多さ、人との出会い、建物の大きさ、すべてが新鮮で輝いて見えたことを今でもはっきりと覚えています。それゆえ、知らない世界への好奇心から大学時代の長期休みの大半を旅行に費やしました。COVID-19の影響で旅行を自粛せざるを得ない状況でしたが、直近で行って大好きになった県を紹介します。

その県はずばり福井県です。福井と言えば恐竜博物館、東尋坊、越前蟹などが思いつくでしょうか。もちろん東尋坊は壮大で自然の雄大さを物語っていますし、魚介類は新鮮でおいしいですが、真の福井県のすばらしさは人にあります。福井駅から荷物を持ったまま、山奥にある永平寺を訪れたところ、コインロッカーが空いておらず、右往左往。たまたま入ったお店で「大きな荷物ですね。永平寺観光するのなら持っていくの大変でしょう。預かりますから帰りに寄って行ってください」と店員さんに言われたこと。バス停で迷っていたら「このバスはそこ通らないから次の便で乗ったらいよいよ」と教えてくれたこと。観光タクシーを物珍しく見ていたら「まだ試運転中だけど試しに乗ってみる？」と観光案内をしながら送迎してくれたこと。旅先の親切はとても心にしみるものでした。と同時に自分は同じことができているだろうか？と振り返る機会になりました。大混雑



標津町出身。遺愛女子高校、札幌医科大学医学部を卒業し、現在北海道医療センターで初期研修医1年目となります。写真は福井県の東尋坊を訪れた時のものです。東尋坊の柱状節理は朝鮮半島とスカンジナビア半島の西海岸と並び、世界3大絶勝の1つで圧巻でした。

の地下鉄にイライラ、毎日自分のことでいっぱい、他者を思いやることはおろか、他の人が目に入っていないのではないかと反省しました。永平寺に展示してある道元の言葉の1つに「どう生きるか」というものがあります。生まれて死ぬ1度の人生をどう生きるかが仏法の根本的問題。長生きすることが幸せなのか、短命で死ぬのが不幸なのか。決してそうではなく、問題はどうか生きるか、なのだと。福井県の人々への感謝を忘れず、自分がされた優しさをほかの人にも分けられるよう、まだまだ修行の身ですが少しでも自分の行動を変えていけたらと思います。

現在47都道府県中29都道府県でまだまだ半分程度。旅行は現地の人々の生活や食、そして新たな価値観に出会い、気づきをくれる機会ではないでしょうか。次の旅はどこにしようか、どんな人に出会えるのだろうか、と考えるだけでもワクワクします。おすすめの旅先があれば教えてください。



福井県の永平寺を訪れた時のもの。本文中に登場する、荷物を預かってくださったお店（永平寺そば亭一休様）のお料理です。ごま豆腐やそば等の精進料理からソースカツ丼など福井県のグルメが勢ぞろいしています。



デザートのアップルパイはお店の隣のアトリエ菓修様のもの、サクサク絶品。テイクアウト用のものはあっという間に完売し、中々買えないため幻のアップルパイとも呼ばれています。